

# 沖縄に米無人機配備

## 鹿児島から移動 来月から

在日米軍が、海上自衛隊鹿屋航空基地（鹿児島県鹿屋市）に一時配備している無人偵察機「MQ-9」を米軍嘉手納基地（沖縄県嘉手納町など）に移し、来月から運用を始めることが、防衛省関係者への取材でわかった。運用エリアをより南西にシフトし、中国が活動を強める沖縄周辺の警戒監視と情報収集を強化する。

鹿屋基地に一時配備中のMQ-9は計8機で、昨年11月21日から米軍が運用している。機体は全長約11メートル、全幅約20メートル。夜間や悪天候でも船舶などの動きがわかる高性能センサーを備える。市内には米軍関係者1505200人が駐留する。

鹿屋基地への一時配備は昨年1月に明らかになった。2月に始めた日米合同の現地調査を経て、防衛省は5月、市に正式に計画を伝え、市議会や市長は容認した。運用期間は今年11月20日までの1年間としていた。

ただ、今年8月には1機が滑走路をオーバーランするトラブルも起き、米軍が運用を停止した。浜田靖一防衛相（当時）は9月、運用期限は「米側との調整になる」と述べ、延長する可能性を否定していなかった。

（成沢解語）